

供給サイドの構造改革

5月17日 日本アカデミアにおける総理プレゼン資料

【現状等】

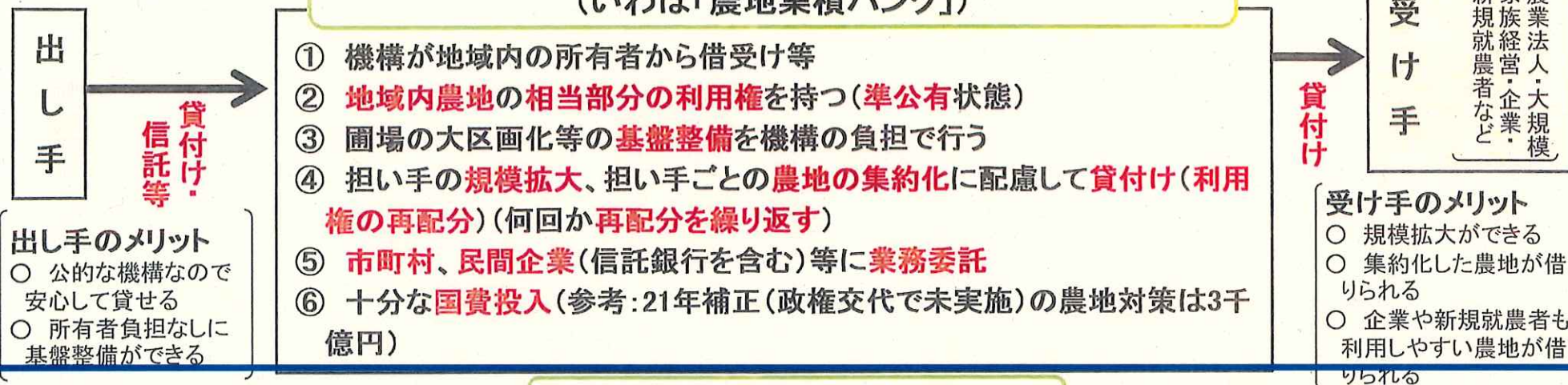
- この20年間で、耕作放棄地は約40万ha(滋賀県全体とほぼ同じ規模)に倍増。
- 担い手の農地利用は、全農地の5割。

目 標

- 今後10年間で、**担い手の農地利用が全農地の8割を占める農業構造を実現**(農地の集積・集約化でコスト削減)

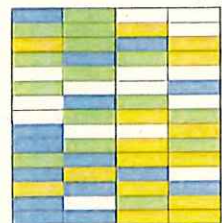
スキーム

県農地中間管理機構(仮称)(農地の中間的受け皿) (いわば「農地集積バンク」)

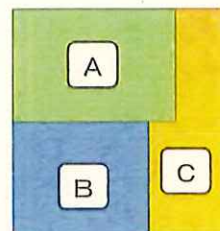
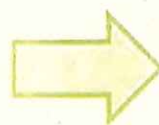


農地の集約(イメージ)

地域内の分散・錯綜した農地利用
<1枚の圃場 30a区画>



緑	A 農業法人	20ha
青	B 大規模家族経営	20ha
黄	C 企業	20ha
白	D その他の小規模家族経営	20ha
		(20経営体)



担い手ごとに集約化した農地利用
<1枚の圃場 1ha区画>

A	農業法人	30ha (+10ha)
B	大規模家族経営	25ha (+5ha)
C	企業	25ha (+5ha)

農地の集積・集約化でコスト削減